

# 生徒会長の好きなもの

MstaR☆(みすた)

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

葉月恋ちゃんって生徒会長だったっけ……と思いつつ描いたSS。恋ちゃんがスクールアイドルのプロフィールを作成するようです。

(L i e l l a の S S 初投稿です。呼称や口調の誤植はご容赦……)

目次

## 生徒会長の好きなもの

く結ヶ丘女学院、スクールアイドル部部室予定地く

恋「……。」カタカタ

—————  
スクールアイドルプロフィール

誕生日 11月24日

血液型 A型

身長 163cm

趣味 乗馬、クラシック音楽、ジャム作り

特技 ピアノ、フィギュアスケート

好きなもの I

—————

恋「好きなもの……なんででしょうかね？」

……。

恋「質問がフワフワし過ぎでしょうか……。そういえば、前にもそんなやりとりをしたことがありましたっけ……？」

くくく 回想 くくく

く4月、生徒会室く

かのん「すみませーん、スクールアイドル部の設立をしたいんです

けど……。」

恋「部活動の設立を希望ですね。ではこちらの書類に最低5人分、部員となる方のサインを頂いてきてください。」

千砂都「ご、5人も!？」

かのん「1人足りない……。」

千砂都「ねえねえ、1人くらい負けてくれてもいいでしょ?」

かのん「千砂都ちゃん!？」

恋「フフ。足りなければ集めれば良いだけです。新設校なんですから、部に所属しておられない方も多いでしょうし。」

千砂都「ダメか……。」

かのん「あと1人……。」

千砂都「かのん、行く。」

かのん「……生徒会長さんは何か部活動に参加されていますか?」

千砂都「ええ!？」

恋「いえ。私は生徒会長としての勤めがありますので……。」

かのん「じゃあ、私たちと一緒に

恋「致しませんよ。」

かのん「そうですか……。」「シユン…

千砂都「とかいいつつ本当は〜?」

恋「致しません。」キツパリ

千砂都「なんだよいけず〜!」

恋「全校生徒の模範であるべき私が、頭数のためだけに幽霊部員になつては示しがつきませんし。」

千砂都「そうじゃなくて〜!一緒に部活しようよ〜!」

恋「はあ……。嵐さん、あなたは先程まで乗り気ではなかったでしょうに。」

千砂都「ん、ま〜そうなんだけど……。かのんが入って欲しいなら全力で誘う!」ビシッ!

恋「……。」

かのん「千砂都ちゃん、一回帰ろ?」

千砂都「え〜……。じゃあ、好きなもの!せめて好きなもの教えて!」  
オネガイ

恋「好きなもの、ですか……。?」キョトン

千砂都「部員がダメでも友達なら良いでしょ?」オネガイ

恋「とも、だち……?」

千砂都「そうそう! 同じ高校生なんだし、もっと仲良くなりたいもん!」

恋「そう、ですか……。好きなもの……。」

かのん「千砂都ちゃん、質問がフワフワしすぎて会長さん困ってるよ……!?!」

恋「……動物なら、馬……でしようかね?」

千砂都「会長さ……なんて呼べばいい?」

恋「私の名前は葉月恋と申します。どうぞお好きなようにお呼びください……♪」「ニコ」

千砂都「そっか、じゃあ恋ちゃん! ありがとう♪」

恋「恋ちゃん!?!」／／／

千砂都「またね〜!」

ドア「ガチャ……。」ガチャ……

かのん「え!?! 待って

恋「渋谷さん。」

かのん「ひゃい!? ななな、なんでしょ!?

恋「……。」

かのん「……。」ビクビク

恋「良いご友人をお持ちなのですね♪」ニコ

かのん「へ? ……、はい♪自慢の幼馴染です!」ニツコリ

カノン?

恋「行ってあげてください。」

かのん「は、はい!失礼しました〜!」

ドア「ガチャ……。」ガチャ……

恋「……。」

……。

恋「静かになりましたね……私も職務に戻らなければ。」

……。

恋「恋ちゃん……ですか／＼……私も部活動に入れば、肩書きではなく人となりを見て頂けるのでしょうか……。」



くくく回想終わりくくく

恋「あの時は、確かとつさに馬と答えたのでしたっけ。……まさか  
それであんなことになろうとは……。」「モンモン

くくく回想くくく

く次の日、生徒会室く

恋「……。」「テキパキ

ドア「バアアアン!!」「バアアアン!!

恋「ドアは静かに

馬? 「ひひくんデス!」

ウマ? 「ギャラ……。」「ヒヒーン!」

恋「開けてくだ……。」「馬?」「アゼン

馬? 「そうデス!」

恋「いや、ただのアニマルマスクですよ？首から下は完全に人なのですが……。」「ジーン……」

ウマ？「どこからどう見ても馬なの！」

恋「は、はい……。」「

馬？「では失礼して……。コホン。」

恋「？」

馬？「怒涛の馬！ 馬チャイナ！」

恋「アゼン

ウマ？「閃烈のウマ！ 馬ギヤラクシー！」

馬？「馬好きあるところ、正義の嘶きあり！」

馬？ウマ？「馬面戦隊、うま娘！」ドカーン！

恋（後ろに爆発が見えなきやいけないような気が……。）

馬？ウマ？（決まった……。！）チラッ

恋「ボーゼン

ウマ？「おーっほっほっほ！ 圧巻すぎて声も出ないようね！」オツ  
ホッホ

馬？「あれは『この人たち、大丈夫かな……。？』って憐れんでいる

目德斯……。」

ウマ? 「さあ、これであなかもスクールアイドルに……」

恋 「なりませんよ?」キョトン

ウマ? 「ええ!?! どうしてよ!?!」

恋 「……どこから仕入れた情報かは存じませんが、私が馬を好んでいることは確かです。」

ウマ? 「ほおら!」

馬? 「いや、これは揚げて落とすパターン德斯よ……。」ヤレヤレ

恋 「ですが、目の前で不審なアニマルマスクを被った2人組の珍事を見せつけられて、どうしてスクールアイドルなるものを致したいと思うのでしょうか?」

ウマ? 「!?!」ガーン

馬? 「いや、本気でいけると思ってたん德斯か……。」アキレ

ウマ? 「可可だつて乗り気だつたじゃない!?!」

馬? 「すみれ1人でトッコーさせる訳には行かない德斯よ……。」

ギャーギャー

恋 「とりあえず……。」

カポッ

すみれ「あう!？」

カポッ

可可「ふう、暑かったデス……。」

恋「……。」「ニッコリ

すみれ可可「?」キョトン

恋「ひやかしならお引き取りください。」

ポイツ×2

アーレー!?

デスヨネー

ドア「ガチャ……!」ガチャ……!

恋「ふう……なんだったんでしょう?」

……。

恋「そういえば、どうして私が馬を好きなことを知っていたんでしょう……?」

……。

恋「普通の高校生は、みなあの様なお戯れをなさるのでしょ  
うか……?」

くくく

千砂都『部員がダメでも友達なら良いでしょ?』オネガイ

恋『とも、だち……?』

千砂都『そうそう!同じ高校生なんだし、もっと仲良くなりたいも  
ん!』

くくく

恋「変なことを思い出してしまいました……。」

馬マスク×2「……。」チョココン

恋「これ、どうしましょうか……。」

……。

恋「顔さえ隠してしまえば、私も普通の高校生に……。」

……。

恋「いやいや!私は生徒会長なんですから……。これはしまってお  
きましょう。」

……。

恋「職務に戻りましょう。生徒会長の私があの方達のように  
なろろうなど……。」

~~~~~回想終わり~~~~~

恋「あの時、もし私が馬と答えていなければ、また違った今が……。」

~~~~~回想~~~~~

~~~~~また次の日、生徒会室~~~~~

恋「……。」モクモク

ドア「バ……ガチャ。」ガチャ……

可可「失礼しますよー。」

恋「あら？あなたは確か……馬チャイナさんでしたね。」

千砂都かのん「？」

すみれ「……ww」ププ

可可「ちよつと!? 違いマス! 今はもうクウクウデス!」

恋「あ／／／………失礼しました／／／／、それでは今日はどういうご用件でしょうか?」

可可「ズバリ! あなたをスクールアイドルにしに来ました!」ビシツ!

恋「クウクウさん、あなたは潔い方なのですね……。」トオイメ

千砂都「ねえ、何かあったの?」

すみれ「さささ、さあ!」ダラダラ

恋「ですが、私にその気はございません。あれほどまでに行動力のあるあなた方です。他の方をご勧誘なされば、頭数を揃えるなど雑作もないと見受けられますが。」

可可「オー、馬だけに!」ナルホド!

恋すみれ「ブフツ……w w」

かのん「ほんとに何かあったの……?」オソルオソル

恋「すみません、はしたない真似を……／／／」

可可「そんなこと誰も気にしません! カイチヨ……恋ちゃんも同じ高校生デスから♪」ニコ

恋「……!?!」

かのん「生徒会長さん……?」

恋「はっ!?……コホン。どうして私の名前を……」

千砂都「♪」ニコニコ

恋「……なるほど。」

可可「思った通り!恋ちゃんの笑った顔、とつても可愛かったデスよ♪」ニコ

恋「な……／＼／＼」

すみれ「……こんな堅っ苦しい所で1人怖い顔してるなんてもったいないんじゃない?」チラツ……

恋「なるほど……今度はそういう手口ですか。」

かのん「手口というか……生徒会長さんも、一緒に……どうかな?」

恋「……………」

恋「申し訳ございませんが、私には生徒会長の勤めがありますので。」

千砂都「またそれ……。」

かのん「そうですか……。」シユン……

恋「私は『生徒会長』として、全校生徒の模範として、きちんと努めを果たさなければ。無理に私をお誘いなさらずとも、あなた方はあ



なた方の青春を謳歌すればよろしいかと。」

かのん「すみません……。」「シユン……」

すみれ「……。」「」

可可「むく……。」「」

すみれ「……。」「出直すわよ。」「」

千砂都「あれ？随分とあっさり引き下がるんだ？」

すみれ「今ここで言い合っても埒があかないでしょ？ほら、帰った。帰った。」

かのん「ええく!?!」

ドア「ガチャ……。」「ガチャ……」

恋「また……。嵐のような方達でしたね。」

ドア「ガチャ……。」「ガチャ……」

恋「?」「」

すみれ「また来るから。」「」

恋「……何度いらしても、結果は変わらないかと思えますよ。」

すみれ「結果なんて知らないわよ。……私はあなたを諦めないから。」

ドア「ガチャ……」ガチャ……

恋『『また』……ですか。』

……。

恋「……♪」

……。

恋「はっ!? 私は一体何を期待して……。」

くく

かのん『手口というか……生徒会長さんも、一緒に……どうかな?』

恋（そうです、私は会長さんなんですから……。）

……。

恋「……。」ボ……

「またまた次の日」

恋「……♪」ワクワク

恋「……はっ!?!いけない、いけない。今日も生徒会の勤めを果たさなければ……。」

……。

恋「……これが当たり前。騒がしいのに慣れてしまうのも考えものですね……。」テキパキ

……。

恋（……別に、寂しいわけでは……!）

ドア「ガチャ……。」ガチャ……

すみれ「失礼するわよ。」

恋「どうぞ、今日はお一人なんですね。あなたは、ええつと……馬ギヤラクシーさん?」

すみれ「私の顔、そんなに馬面かしら?」ジト……

恋「し、失礼しました／＼／＼……それで、今日はどのような御用件でしょうか?」

すみれ「用？そんなの無いわよ？」

恋「……冷やかしですか？」ジ……

すみれ「だつてあなたに会いに来ただけだもの。私、『また来る』つて言ったわよね？」

恋「確かに、昨日そう仰いましたが……。」

すみれ「なによ、歯切れが悪いわね。……じゃあ、『生徒会の仕事を手伝いに来た』。これでいいでしょ？」ポスト

恋「ええ!？」

すみれ「……なるほど？今は部活動の書類を整理してるのね。」テキ  
パキ

恋「あの、ちよつと!？」

すみれ「『ちよつと』じゃない、『すみれ』よ。」テキパキ

恋「ええつと……すみれさん!？」

すみれ「なに?」

恋「お気持ちは嬉しいのですが……。」

すみれ「ほら、手が止まってるわよ?」

恋「え、あ、はい!」テキパキ

.....

恋すみれ「…………。」 テキパキ

.....

すみれ「終わったー！」 ツカレタ…

恋「すみれさん、ありがとうございます♪」

すみれ「あなた、いつもこんな量1人でやってるの？」

恋『『あなた』ではありません、『恋』ですよ♪』

すみれ「…………これは一本取られたわね。」

恋「あ！すみません!? 私ともあろうものが、つい馴れ馴れしく……

すみれ「良いじゃない、別に。タメなんだし、対等で。」

恋「あ、ありがとうございます…………。」

すみれ「かのんに対しても、それくらい積極的にいけばいいのに。」

恋「…………それにしても、すみれさんはどうして1人で来ようど？」

すみれ「露骨に話題を逸らすのね? まあいいわ。……………どうして、なんて私にもわかんないわよ。」

恋「え…………。」

すみれ「……前にかのんが、実家の神社に押しかけて来たことを思い出してね。」

恋「かのんさん、ですか……。」

すみれ「ああ、かのんはこの間スクールアイドル部作りに来た子よ。」

恋「はい、よく覚えています。千砂都さんに、可可さん、それにすみれさん……良いご友人に恵まれていらっしやいましたね。」

すみれ「そうかしら？」

恋「ええ。千砂都さんは、私を勧誘なさったかのんさんの意思を汲んで『友達』になろうと食い下がりました。」

すみれ「へえ、そんなことが。」

恋「とぼけなくても良いんですよ？すみれさんと可可さんが馬に扮していらしたのも、千砂都さんから私の馬好きを聞き出したのことでしょう？」

すみれ「バレてたのね……。」

恋「そしてすみれさんがこうして1人、私に会いに来てくださったのは……」

すみれ「どうしたの？急に黙っちゃって。」

恋「昨日、かのんさんが私に断られて落ち込まれていたのを気にかけてのことですよね？」

すみれ「へえ……驚いた。恋ってそこまで鋭いのね。」

恋「これでも生徒会長ですから。」

すみれ「生徒会長って便利な言葉ね……。」

恋「それで、すみれさんはどのようにして私をご勧誘なさるんでしょう?」

すみれ「しないわよ?」

恋「へ?」

すみれ「かのんが恋を誘うって決めたなら、かのんが1番頑張るのが筋でしょ? 私は充分体張ったし。」

恋「……た、確かに。」

すみれ「何でもかんでもやってあげちゃったらそれは友達じゃないわよ。」

恋「……やはり、あなた方は非常に良い関係をお築きのようですね。」

すみれ「羨ましかつたらいつでもいらっしやい。みんな歓迎してくれるはずよ。」

恋「……いえ。私は『生徒会長』ですから。」

すみれ「恋って結構根に持つタイプなのね……。」

恋「さあ、なんのことでしょう。」

すみれ「……まあいいわ。さて、と。」スク

恋「お帰りですか？」

すみれ「みんなを待たせるし、ね。」

恋「……はい。」

すみれ「……みんなが待ってるのは私だけじゃないだろうけど。」

恋「へ？」

すみれ「だから……またね♪」

恋「は、はい……。」

ドア「ガチャ……。」ガチャ……

くまたまた次の日く

恋「……。」テキパキ

ドア「ガチャ……。」ガチャ……



??? 「失礼しまーす……。」

恋 「はい。本日はどのようなご用件……渋谷さん？」

かのん 「どうも……。」

恋 「こんにちは♪今日はどんなご用ですか？もしかして、すみれさんのように私に会いに来てくださったとか……。」

かのん 「えっと……。」

恋 「すみません、少々意地悪が過ぎまし

かのん 「そうですねっ！」

恋 「へ？」

かのん 「生徒会長さんにスクールアイドル部に入ってほしくて、ちゃんと誘いにきました！」

恋 「そう、ですか……。」

かのん 「あう……。すみません。」

恋 「いえ、謝ることなんてありませんよ……。それで、渋谷さんはどのようにご勧誘なされるのでしょうか？」

かのん 「えっと……。その……。」 オドオド

恋 「大丈夫、ゆっくりで構いませんよ？私は逃げも隠れも致しませ

んから。「ニコ

かのん「……歌います!!」

恋「アゼン

かのん「……………、はじまりはーきみのそーら♪」

恋（有無を言わず歌を聴く流れに……）

かのん「どーんなゆーめかーおーしーえーてー♪」

恋（綺麗な声ですね……。どこか荒削りな印象もありますが……）

かのん「ほーしーにねがうーまえに、かーたーりーあってみようー  
よー♪」

恋（一生懸命な様子がよく伝わってきます♪）ニコ

かのん「とーきーめーきをー、わーかーちあいたーいよー♪」

恋（合唱部でもダンス部でもなく、スクールアイドル部……ですか）

かのん「……。」

恋「……終わり、ですか？まだ続きがあるように思えるのですが……。」

かのん「すみません、まだ曲が未完成で……／／／

恋「未完成？……え、まさかスクールアイドルの方々って、曲まで

作られているんですか……!?!」

かのん「はい……／＼／＼」

恋「……なるほど。素晴らしいお手前ですネ♪思わず『頑張れ』つて応援したくなってしまいうような、言葉では形容し難い求心力がありました。」

かのん「じゃあ……!」

恋「……ですが、あなた方のお手前が素晴らしいことと、生徒会長の私が加入することになんの関連もありません。これからも1ファントとして、あなた方を応援させて頂きます。」

かのん「そんな……。」

ドア「バアアアン!!」バアアアン!!

かのん恋「!?!」

千砂都「やいやい恋ちゃんよお!」

可可「うちのかのんが誠心誠意頼んでるのに、それはないデスよ!」

すみれ「……恋ってほんと強情なのね。」ヤレヤレ

かのん「え!?!みんな、いつの間に!?!……っていか聞いてたの!?!」

恋「……強情も何も、私は生徒会長としての勤めを果たさなければ

なりませんし、部活動に現を抜かして本来の勤めが疎かになれば、全校生徒に示しがつかないことに変わりはございませんが。」

千砂都「じゃあ私達も手伝うよ〜!」

恋「お気持ちは嬉しいのですが、私の我儘であなた方の練習時間を奪うわけにはいきません。せっかく素晴らしいものをお持ちなのに、私とその芽を摘んでしまつてはそれこそ……

かのん「だったら、恋ちゃんと一緒がいいのも私の我儘だもん!!」

恋「……………へ?」

かのん「あ!ごめんなさい!?!つい馴れ馴れしく……

恋「いえ。……………」

〜

恋『あ!すみません!?!私ともあろうものが、つい馴れ馴れしく……

すみれ『良いじゃない、別に。タメなんだし、対等で。』  
〜

かのん「あう……。」ビクビク

恋「……………初めて、名前で呼んでくださいましたね。かのんさん

♪「ニコ

かのん「…………あれ?本当だ。」

恋「生徒会長ではなく、この私、葉月恋という人間を必要としてく  
ださっている。そう、期待しても……いいんでしょか……?」

かのん「……うん！」

恋「………でしたら、生徒会の仕事もきちんとお手伝い願います  
よ?」

かのん「へ……?」

千砂都「ちゃんとかわかないとわかんないよ?はいコレ。」シンセイ  
シヨ

恋「う／＼／＼……わかりました、では失礼します。」シユバツ

千砂都「もう、素直じゃないな。」コノコノ

恋「……、」カキカキ

――――

部活動設立申請書

スクールアイドル 部

顧問

部長

・ 渋谷かのん

部員

- ・嵐千砂都
- ・平安名すみれ
- ・唐可可
- ・葉月恋

—————

恋「これで意思は表明しました。もう文句は

千砂都「え、口で言わないとわかんないよ？」

恋「く／＼／…、わかりました。……………」

千砂都「わくわく。」

恋「この葉月恋、本日をもってお世話になります。スクールアイドル部の皆さん、不束者ですがどうぞよろしくお願いします。」ニコ

可可「なんで日本人ってこんなに回りくどいんですか？」ヒソヒソ

すみれ「あれが特別めんどくさい人間なだけよ……。」ヒソヒソ

恋「可可さん、すみれさん、よろしくお願いしますね♪」ニコニコ

可可すみれ「ひいひい!？」

千砂都「これで晴れて部活動発足!……じゃあさじゃあさ、部室なんかも……!？」

恋「あ、それはまだ先ですね。」

かのん千砂都可可すみれ「え!?!」

恋「次は、顧問となつてくださる先生を見つけないと♪」

可可「そこは生徒会長の権力で

恋「ズルはいけませんよ。それに、スクールアイドル部にいる間は、私はただの『葉月恋』ですから♪」ニコ

可可「いけずく……。」「ブーブー

恋「まあ、当てはいくらでもあるので、順番に頼みにいきましようか。」

かのん「え、いいの?」

恋「模範生ですから!」ドヤ

すみれ「解釈変更はお手の物、つてわけね……。」「ヤレヤレ

千砂都「じゃあ早速、レッツゴー!」

可可「オー♪」

すみれ「ギャラクシー!」

恋「ほら、行きますよ?かのんさん♪」

かのん「……うん♪」

くくく回想終わりくくく

恋「……いや。あの時、私がどう答えていようと、きっとLieliaのみなさんはきっと私を放さなかったでしょう……♪」

……。

恋「そう遠くない内に、ここも賑やかになるんでしょうかね……。」  
カタカタ

—————  
スクールアイドルプロフィール

誕生日 11月24日

血液型 A型

身長 163cm

趣味 乗馬、クラシック音楽、ジャム作り

特技 ピアノ、フィギュアスケート

好きなもの Lielia

I

—————

恋「こ……これは、流石に……／／」カタカタ



スクールアイドルプロフィール

誕生日 11月24日

血液型 A型

身長 163cm

趣味 乗馬、クラシック音楽、ジャム作り

特技 ピアノ、フィギュアスケート

好きな食べ物 コンソメスープ、いちご、ダーズリンティー

好きな言葉 「初心忘るべからず」

好きな教科 生物、英語

好きな動物 犬、馬

恋 「……よし。」カタン…

……。

恋 「あとは……荷物の整理でも致しましょうか。」

……。

恋 「さて、と。これで大方荷物は片付きましたね。」

……。

恋 「ある日突然、万全の部室が使えるようになっていたら……皆さんもきつとお喜びになるでしょう♪サプライズとはなかなか大変な……でも、胸が高鳴るものなのですね。」

.....。

恋「あとは……。」チラッ

馬マスク×2「……。」チョココン

恋「まあ、サプライズであの2人に勝とうとは思いませんけどね……。」

馬マスク×2「……。」チョココン

恋「……。」ソワソワ

馬マスク×2「……。」チョココン

恋「……。」ゴクリ

.....。

恋「ちよつとだけなら……／＼／」ソウチャク!

.....。

馬? (なるほど……意外と落ち着くものですね。)

.....。

馬? (そうだ、誰も見ていないなら……。)

ウイツ…モガ!?  
シー……デス

馬? 「確か、名乗り口上は……。」ムムム

ナニシテルンダロ?

サイツコウニギヤラクシーナコトヨ!

馬? 「よし!……誰もいませんよね?」キヨロキヨロ

……。

馬? 「うん。」

馬? 「麗しの馬!馬ラブリー!」ビシツ!

ブフツ……w

コレハナカナカ…

馬? 「馬好きある所、正義の嘶きあり!馬面戦隊、うま娘!」ドツ  
カーン!

ム、ムリ……デ…w w w

アツハツハツハツハツハツハツハ w w w

馬? 「しまっ／＼／＼／＼」クルツ

千砂都「う、馬w wラブリーw w w」バンバン!

可可「恋さんw才能ありマスww」モダエ

すみれ「あんまりいじめ……wと、可哀そw、でしょ……ww」プルプル

恋「な、なんで皆さんがここを／／／／／カポツ

千砂都「いや、最近恋ちゃんの動きが不審だったからさ？こっそり跡をつけたら良いもの見れちゃったw」

恋「な、な、な……／／／／／」プルプル

すみれ「あの硬度10の生徒会長も、すっかり馴染んでくれたみたいで嬉しいわ。」キリッ

恋「」

すみれ「ね、かの……」

かのん「」コヒュー、コヒュー……

千砂都「うわあゝ!?生きてかのんちゃんゝん!!!?」

可可「これが腹筋崩壊デスか……。」

すみれ「もう笑いが声になってないわね……。」

恋「」

形はどうであれ、皆さんが喜んでくれたようなのでサプライズは大成功……？

かくして、スクールアイドル葉月恋が誕生したのでした。

まだまだ若輩者ではございますが、Lieiliaの皆さま共々、よろしく願います♪

〈FIN〉